














































検査項目	点数	0点	1点	2点	3点	4点	5点
1. 姿勢 posture 仰臥位, 安静		 腕と脚を伸展	 股関節, 膝関節でわずかに屈曲, 腕は伸展	 脚が, より強く屈曲, 腕は伸展	 腕はわずかに屈曲, 脚は屈曲外転	 腕と脚が完全に屈曲	
2. 手の前屈 square window 検査者の拇指と示指で, 児の手を前腕の方向へ十分屈曲させるように圧力を加える		 90° 前腕と小指球の角度90°	 60°	 45°	 30°	 0°	
3. 足関節における背屈 ankle dorsiflexion 検査者の拇指を児の足趾に, 他の指を児の足の背面におき足を脚の前面に向けて屈曲させる		 90°	 75°	 45°	 20°	 0°	
4. 腕の反跳 arm recoil 仰臥位。児の腕を5分間屈曲させた後, 手を引っ張って十分に伸展させ, それから手を放す		 180° 伸展, または無目的の運動	 90~180° 屈曲不完全または反跳ゆっくり	 <90° 迅速, 完全に屈曲			
5. 脚の反跳 leg recoil 仰臥位。股関節と膝関節を完全に屈曲(5分間), ついで足を引っ張って脚を伸展した後, 手を放す		 180° 屈曲(-), またはわずかに	 90~180° 不完全な屈曲	 <90° 股関節および膝関節で完全に屈曲			
6. 膝窩の角度 popliteal angle 検査者の左の拇指と示指で, 児の上腿を胸壁につけ(膝胸位), 右の示指で足関節の後部を圧して, 脚を伸展させる		 180° 膝窩の角度 180°	 160°	 130°	 110°	 90°	 <90°
7. 踵→耳 heel to ear 児の足を持って頭部に近づける。足と頭の距離, 膝の伸展の度合を観察							
8. スカーフ徴候 scarf sign 仰臥位。児の手を持って, 頭部の前を通過して他側の肩へ, そして後方へ向けて, できるだけ引っ張る		 肘が他側の腋窩線に達する	 肘が正中線と腋窩線との間	 肘が正中線的位置	 肘が正中線に達しない		
9. 頭部の遅れ head lag 仰臥位。児の両手(小さな児では腕)を握り, ゆっくりと座位に引き起こす。頭部と軀幹の位置関係を観察		 頭部が完全に後方に垂れる	 頭部が不完全ながら軀幹の動きについてゆく	 頭部を軀幹の線に保つことができる	 頭部を軀幹より前に出す		
10. 腹位懸垂 ventral suspension 腹臥位。検査者の手を児の胸の下において児を持ち上げる。背部の伸展度, 腕と足の屈曲, 頭部と軀幹の位置関係を観察							

Dubowitz 法の身体外表所見

項目	点数	0点	1点	2点	3点	4点
1. 浮腫		手足に明らかな浮腫, 脛骨部圧痕(+)	手足には明らかな浮腫なし。脛骨部圧痕(+)	なし		
2. 皮膚の構造		非常に薄く膠様(gelatinous)の感じ	薄くて滑らか	滑らか。厚さは中等度。発疹または表皮剝脱	わずかに厚い。表在性の亀裂と剝脱(とくに手足)	厚くて羊皮紙様。表在性または深い亀裂
3. 皮膚の色		暗赤色	一様にピンク	うすいピンク。体の部分により変化あり	蒼白。耳, 唇, 手掌, 足底のみピンク	
4. 皮膚の(不)透明度(軀幹)		多数の静脈, 細静脈がはっきりと見える(とくに軀幹で)	静脈とその支流が見える	腹壁で, 数本の大きな血管がはっきり見える	腹壁で数本の大きな血管が不明瞭に見える	血管が見えない
5. 毳毛(背部)		なし	多数: 背中全体に多数, 密生	まばら(とくに背下部で)	少ない。毳毛のない部分あり	背中 of 少なくとも 1/2 は毳毛なし
6. 足底のしわ		なし	足底の前半分にかすかな赤い線	前半より広い領域にはっきりした赤い線, 前1/3より狭い領域にはっきりした陥凹線	前1/3より広い領域に陥凹した線	前1/3より広い領域にはっきりと深く陥凹した線
7. 乳頭の形成		乳頭がほとんど見えない。乳輪なし	乳頭がはっきり見える。乳輪: 平坦で滑らか, 直径<0.75cm	乳輪: 点刻状(つぶつぶ), 辺縁隆起せず, 直径<0.75cm	乳輪: 点刻状(つぶつぶ), 辺縁隆起, 直径>0.75cm	
8. 乳房の大きさ		乳腺組織を触れない	1側または両側に乳腺組織を触れる。直径<0.5cm	両側に乳腺組織。1側または両側の直径0.5~1.0cm	両側に乳腺組織。1側または両側の直径>1.0cm	
9. 耳の形		耳介が平坦で, 形の形成不十分, 辺縁の内屈(内彎曲)は(-)またはわずかに	耳介辺縁の一部分が内屈	耳介上部全体が不完全ながら内屈	耳介上部全体が十分に内屈	
10. 耳の硬さ		耳介は軟らかく, 容易にしわを作ることができる。反跳的に元の形に戻ることはない	耳介は軟らかく, 容易にしわを作ることができる。ゆっくり反跳して元の形に戻る	耳介の辺縁まで軟骨(+), しかし軟らかい。反跳的に元の形に戻る	耳介は硬く辺縁まで軟骨(+), 瞬間的, 反跳的に元の形に戻る	
11. 性器 男児		両側とも睾丸下降を認めず	少なくとも1個の睾丸が陰嚢内にある(ただし高位)	少なくとも1個の睾丸が完全に下降		
女児(股関節で半分外転)		大陰唇が広く離開, 小陰唇突出	大陰唇は小陰唇をほとんど覆う	大陰唇が小陰唇を完全に覆う		

Ballard 法

項目	点数	0	1	2	3	4	5
神 經 学 的 檢 査	姿 勢						
	手の前屈	 90°	 60°	 45°	 30°	 0°	
	腕の反跳	 180°		 100°~180°	 90°~100°	 <90°	
	膝窩角	 180°	 160°	 130°	 110°	 90°	 <90°
	スカーフ 徴 候						
	踵 → 耳						
身 体 外 表 所 見	皮 膚	膠様で暗赤色、透明	一様にピンク、静脈がよく見える	表皮の剥脱または発疹、静脈はわずかに見える	表皮の亀裂、体の一部は若く、静脈はほとんど見えない	羊皮紙様、深い亀裂、血管は見えない	なめし皮様、亀裂としわが多い
	産 毛 (背部)	なし	背中全体に多数密生	まばら	少ない 産毛のない部分あり	ほとんどなし	
	足底のしわ	なし	かすかな赤い線	前1/3より、狭い領域にはっきりした陥凹線	前2/3の領域に陥凹線	足底全体にしわ	
	乳 房	ほとんど認めない	乳輪は平坦、乳腺組織を触れない	乳輪は点刻状、乳腺組織は1~2mm	乳輪の辺縁隆起し、乳腺組織は3~4mm	乳輪の辺縁はよく隆起し、乳腺組織は5~10mm	
	耳	耳介は平坦で軟らかい、反跳的に元の形にもどらない	耳介は少し内屈し、軟らかい、ゆっり元の形にもどる	耳介はよく内屈し、軟らかい、反跳的に元の形にもどる	耳介は十分に内屈し、硬い。瞬間的に元の形にもどる	耳介軟骨は厚く、硬い	
	性 器 男 児	睾丸下降なし、陰囊のしわを認めない		睾丸は下降、陰囊のしわはわずか	睾丸は完全に下降、陰囊のしわは多い	睾丸は完全に下降、陰囊のしわは深い	
	性 器 女 児	陰核、小陰唇が突出		大陰唇と小陰唇が同程度に出ている	大陰唇が、小陰唇より大きい	大陰唇が陰核と小陰唇を完全ににおおう	

合計点数からの推定在胎週数

合計点数	週 数
5	26
10	28
15	30
20	32
25	34
30	36
35	38
40	40
45	42
50	44